



みどりの風

公益財団法人
 奈良市生涯学習財団 月ヶ瀬公民館
 奈良市月ヶ瀬尾山 2815 番地
 TEL&FAX 0743-92-0346
 発行人 館長 上田 善紀
 発行日 平成28年11月24日(木) 第8号

月ヶ瀬文化祭特集①

晴天に恵まれた11月6日(日)、月ヶ瀬公民館を主会場として、平成28年度月ヶ瀬文化祭(共催月ヶ瀬文化祭実行委員会・月ヶ瀬公民館)が開催されました。大西 博則実行委員長(文化協会会長)による開会の挨拶のあと、舞台発表の始まりです。



開会の挨拶をする大西 博則さん

展示コーナー・作品紹介



毎年、素晴らしい書を展示されて楽しませてくれている丸山 長子さん。「長寿で健康に…」という意味の言葉です。

舞台発表・紹介

月ヶ瀬コーラス

昨年11月、東北大震災があった宮城県南三陸町で地元のコーラスとジョイント合唱をしてきました。心の一部、生活の中にある大切な存在として歌っていらっしやるとのこと。指導は、月ヶ瀬中学校の山野 伸穂さん。



カイオロミア

カイオロミア稚奈(わかな)さんの指導のもと、福祉センターで活動しているフラダンスのグループです。南国情緒いっぱいのホールとなりました。



山根すずみさん、慶子さん親子によるお琴2面でのしっとりとした演奏を聞かせていただきました。



月ヶ瀬薫風

昭和初年から始まった村品評会がかたちを変えて昭和40年代に月ヶ瀬文化祭として実施されてきた地域一番のお祭りは、連綿と受け継がれ、今年も日頃より楽しんでおられる文化の数々を披露していただきました▼俳句、書の文芸、コーラスやカラオケの歌唱、琴や狂言などの伝統芸能、写真、ちぎりの絵、絵画などの美術、そのほか服飾や創作アート、フラダンスなど、多彩な分野にわたっていることに感嘆しました▼舞台やパネルで発表する人、バザーで出店する人だけが主役ではない、見る人、聞く人、買う人がいて文化祭が成り立っている。こは、上田均さん(副実行委員長)の閉会の挨拶でした。また、この通いです。

展示コーナー！作品紹介

月ヶ瀬俳句クラブ(代表・西岡 照さん)では、小谷ますみさんの指導のもと、自作を色紙や短冊に墨書して展示しました。「存じ、丸山佳子氏が名誉顧問を務めていた伝統俳句誌『京鹿子』に、毎月投句されているだけあって、力作が並びました。



夕焼けて地球は小さきドロップス ますみ
優しきと出合ふししの秋のいろ 残照
折鶴に命ふきこむ秋の夜 昭子
栗むきで口笛ひとつこんぎつね 知里
竜の玉絵本の中の海のいろ 雍子
鳥渡る駅舎すっぽり夕日中 由姫子
笛の音に杜しんと秋祭 和代
大西日物流倉庫朱に染まる 豊美
父母の言や湯気やはつかし栗の飯 孝雄
縄跳びの大田に入る秋の山 美紀子
秋なかばチラシながめて旅の夢 利明



竹内 良偉(らい)くん(中3)の自画像 「無心」

舞台発表・紹介

「舞台や展示を見る人、バザーで買う人もまた主役」、と閉会の挨拶をする副実行委員長の上田 均さん



ゲストの大空美樹さんとともに、気持ちよく歌う石本 久尚さん。



楽しい仮装でデュエットする久保田 利子さんと岩田 文和さん。

月ヶ瀬小・中学生のみなさんへ



伝統を守る月ヶ瀬っ子たち

オープニングを務めたのは、桃香野の子供狂言。西上 里桜(にしこうりお)さんと安場 哲咲(あづま せつき)という演目を演じてくれました。

井ノ倉 清繁(いのくら しみず)さんや南浦 潔(なんら けつ)さんたちの誠誼会の指導のもと、8月から稽古を重ねてきました。小学2年とは思えない堂々とした所作と張りのある声に、詰めかけた観客の目はくぎ付けになりました。

2001年にユネスコ世界遺産に登録された伝統芸能の能楽は、桃香野でしっかりと受け継がれています。その能楽の一つ、狂言を188年より子どもたちがそのバトンを引き継いでいるのです。



■西上 里桜(にしこうりお)の話…セリフが長い主人の役だったので、覚えるのがたいへんだった。それに昔の言葉でしゃべらないといけないのがむずかしかった。



■安場 哲咲(あづま せつき)の話…ぼくは、動きがいっぱいある太郎冠者の役だった。足のしびれや治った演技、困った表情なんかを大きく演技するのがむずかしかった。



■井ノ倉 清繁(いのくら しみず)の話…今の子どもたちは、低学年から習い事が多くて、なかなか稽古に充てる時間がありません。それでも、2人とも、よくがんばってくれました。来年3月に県庁前で薪能の一として演じる予定です。